

GA327

国際社会演習—ヒトの移動で読み解く世界—

曾 士才

配当年次／単位：3～4年／4単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春・秋

人数制限・選抜・抽選：選抜

他学部への公開：×

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本や諸外国において、国際労働力や留学生として、または国際結婚などによって移入してきた様々な外国人、あるいは観光客として訪れる人たちに焦点を当て、ヒトの移動を切り口にして、その国のグローバル化や多文化共生について考える。

【到達目標】

日本や諸外国のなかのエスニックタウンやニューカマーを支援するNGOなどの訪問、あるいは外国人観光客誘致に力を入れている地域や外国人に人気のある観光スポットをフィールドワークしたり、研究文献を読むことにより、その国における多文化共生の現状と課題を学び、学部の国際文化情報学会で発表し、最終的には分析レポートとしてまとめる。

【授業の進め方と方法】

19世紀は「移民の世紀」と呼ばれ、ヨーロッパから多くの移民が新大陸アメリカへと渡って行った。同じ頃、アジアでも中国やインドから欧州列強の植民地へのヒトの移動が見られた。「戦争の世紀」と呼ばれる20世紀に入ると、難民や国際労働力としてのヒトの移動が世界規模で広がっていった。そして、21世紀は「観光の世紀」とも呼ばれ、人類最大の異文化接触や交流が日々、世界で展開するようになっていく。

春セメスターでは、ヒトの移動に関する共通文献の講読と関連ビデオを見て、討論を行う。また、自身の研究調査テーマを設定し、先行研究の洗い出し、研究調査計画の立案を行い、チームまたは個人単位で、フィールドワークや研究文献の渉猟を行う。

秋セメスターではチームまたは個人単位で研究調査したことを整理分析し、発表し、討論する。必要に応じて補充調査をし、11月の国際文化情報学会で成果発表を行う。また、研究を深めるために、ゲストスピーカーをお呼びして特別講義をしていただく。

【授業計画】

春学期

| 回 | テーマ | 内容 |
|------|----------------|---|
| 第1回 | 春学期イントロダクション | 春学期授業の説明、自己紹介、共通文献の選定 |
| 第2回 | フィールドワーク入門 | 教員によるレクチャー |
| 第3回 | 共通文献1、2の講読と討論 | 分担者の発表と共同討論 |
| 第4回 | 共通文献3、4の講読と討論 | 分担者の発表と共同討論 |
| 第5回 | 共通文献5、6の講読と討論 | 分担者の発表と共同討論 |
| 第6回 | 共通文献7、8の講読と討論 | 分担者の発表と共同討論 |
| 第7回 | 共通文献9、10の講読と討論 | 分担者の発表と共同討論 |
| 第8回 | 研究発表と討論1 | 3年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する。グループ討論は3、4年生の混成 |
| 第9回 | 研究発表と討論2 | 3年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する |
| 第10回 | 研究発表と討論3 | 3年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する |
| 第11回 | 研究発表と討論4 | 3年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する |

| | | |
|------|----------|--|
| 第12回 | 研究発表と討論5 | 3年生が各自の研究テーマの先行研究について発表し、グループ討論する |
| 第13回 | 研究計画の立案1 | フィールドワークや文献調査の計画案を練る（テーマと調査対象の決定） |
| 第14回 | 研究計画の立案2 | フィールドワークや文献調査の計画案を練る（調査内容と調査方法の決定） |
| 第15回 | 研究計画発表 | チームまたは個人単位で実施するフィールドワークや文献調査の計画案を発表し、質疑応答を行う |

秋学期

| 回 | テーマ | 内容 |
|------|---------------|-----------------------------|
| 第1回 | 秋学期イントロダクション | チームまたは個人単位で研究調査の中間報告 |
| 第2回 | 調査結果の整理・分析1 | チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備 |
| 第3回 | 調査結果の整理・分析2 | チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備 |
| 第4回 | 調査結果の整理・分析3 | チームまたは個人単位で整理・分析 or 補充調査の準備 |
| 第5回 | 調査結果の整理・分析4 | チームまたは個人単位で整理・分析 |
| 第6回 | 調査結果の整理・分析5 | チームまたは個人単位で整理・分析 |
| 第7回 | 調査結果の整理・分析6 | チームまたは個人単位で整理・分析 |
| 第8回 | 研究成果の中間発表会 | ゼミ生全員の前で成果発表をする |
| 第9回 | 学会発表の準備1 | 国際文化情報学会での発表に向けた準備を行う |
| 第10回 | 学会発表の準備2 | 学会発表直前の準備、リハーサルを行う |
| 第11回 | 学会発表の反省会 | 学会発表を振り返り、今後の課題を明らかにする |
| 第12回 | ゲストスピーカー特別講義1 | 観光・旅行分野のレクチャー |
| 第13回 | ゲストスピーカー特別講義2 | 移民・マイノリティ分野のレクチャー |
| 第14回 | 分析レポート作成準備 | 分析レポート作成の準備を行う |
| 第15回 | 研究報告会 | 分析レポートに関する口頭発表 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期では、共通文献の読み込みを行うとともに、自身の研究テーマの先行研究の洗い出し、読み込みを行う。秋学期では、フィールドワークや文献調査によって得られた調査結果の整理・分析を随時行う。

【テキスト（教科書）】

初回の授業で相談して決めたい。

【参考書】

山下晋司編『観光文化学』新曜社 2007年
 神田孝治編『観光の空間—視点とアプローチ』ナカニシヤ出版 2009年
 S. カースルズ、M.J. ミラー（関根政美・関根薫監訳）『国際移民の時代 [第4版]』名古屋大学出版会 2011年
 日本移民学会編『移民研究と多文化共生』御茶の水書房 2011年
 吉原和男編『現代における人の国際移動—アジアの中の日本』慶応義塾大学出版会 2013年

【成績評価の方法と基準】

春学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度70%、期末に課すレポート（研究調査計画書）30%、秋学期は授業中の討論への参加度、調査への参加度70%、期末に提出する分析レポート30%の割合で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ参加者数が多く、グループワークの時間が占める割合が高い。ゼミ生全体の交流の機会を確保するために、懇親会や授業支援システムの活用を心がけたい。

管理 ID:
1705253
授業コード:
C1130